

私は、「絵を描くカウンセラー」を自称しています。絵を描いてきた経験を生かしてカウンセリングをしているので、自らをそう呼んでいます。

ナビゲーター

絵を描くということは、一般的には風景や静物をきれいに描くと思われがちですが、その時の感動（それは心地よい感情だけでなく怒りや悲しみなどの感情も含めて）を表現することと考えています。

産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 34

そのため、表現結果としての作品は、対象が分かりやすいものもあれば、異様な形になっているものや色の変化が主体の表現である場合があります。

私は人が好きです。世の中には、いろいろな人がいます。それぞれの人には、その人独自の人生があり想いがあります。気の合う人や私を嫌う人などの人たちに接すること

絵を描くカウンセラー

で、私は刺激をいただけてきて、人の心を50数年描き続けています。

その絵を描くという活動は、形を映すという事だけではなく、モデルになる人の精神性及びその人の持つ雰囲気や画面の上で映し込んでいくという行為です。絵を描く動機をモチーフと呼びますが、私のモチーフは実際に存在する人の場合もありま

すが、山とか海とか花とかを見てきた時に心に浮かんだ夢や希望などの「ごうりたい」という想いである場合もあります。

絵を描いてきたことが、カウンセリングにどのような生きているかは明確には言えないところですが、絵を見て、何故このような感情が出てくるのかを想像し振り返ること

で、人の心を見る眼が養われてきたと思っています。人はと感じます。その感覚が、絵を描いてきたことで磨かれてきているのではないかと思っています。

絵を描いてきたことが、カウンセリングにどのような生きているかは明確には言えないところですが、絵を見て、何故このような感情が出てくるのかを想像し振り返ること

で、人の心を見る眼が養われてきたと思っています。人はと感じます。その感覚が、絵を描いてきたことで磨かれてきているのではないかと思っています。

絵を描いてきたことが、カウンセリングにどのような生きているかは明確には言えないところですが、絵を見て、何故このような感情が出てくるのかを想像し振り返ること

で、人の心を見る眼が養われてきたと思っています。人はと感じます。その感覚が、絵を描いてきたことで磨かれてきているのではないかと思っています。

人を見るスキルを磨く

【日本産業カウンセラー協会中部支部会員 山田茂樹】

(火曜日掲載)

